

第1回 多職種オンラインセミナー

R2.11.27開催

参加者数（50名）回収（42）回収率（84.0%）

n = 42

職種内訳



経験年数



結果：PTが最も多く（17%）

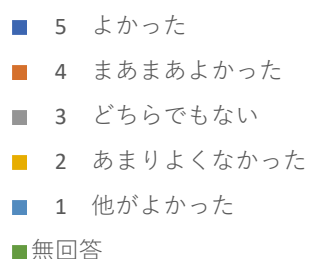
CM(14%)の順

n=42

結果：11~20年が最も多かった。

n=42

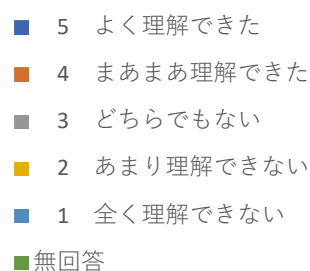
1-①研修テーマについて



結果:評価5（62%）評価4（38%）

n=42

1-②研修内容の理解度

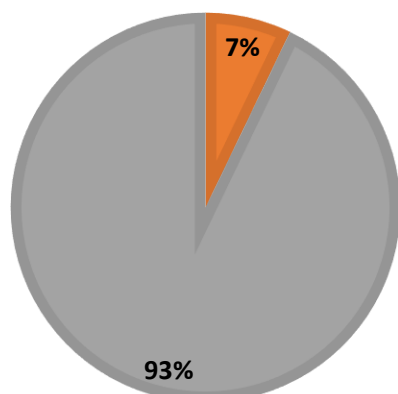


結果：評価5（55%）評価4（38%）

n=42

2-①研修の進め方

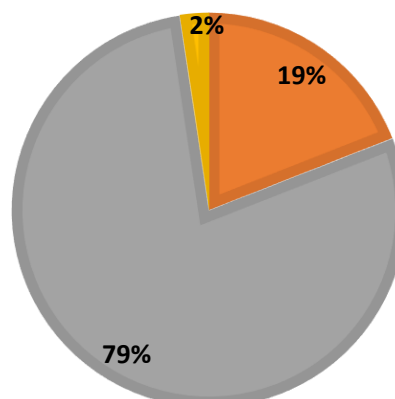
■長い5 ■4 ■ちょうど良い3 ■2 ■短い1



結果：進め方は、ちょうど良い（93%）
n=42

2-②情報量について

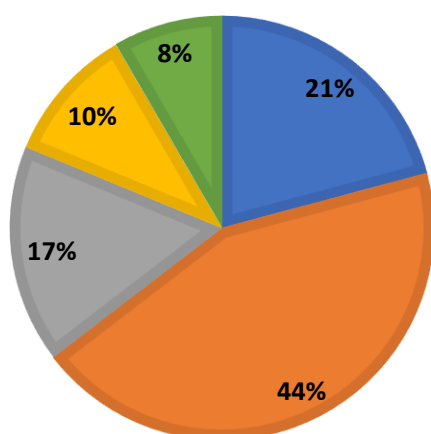
■多い5 ■4 ■ちょうど良い3 ■2 ■少ない1



結果：情報量はちょうど良い（79%）
n=42

3-①研修会の希望形式

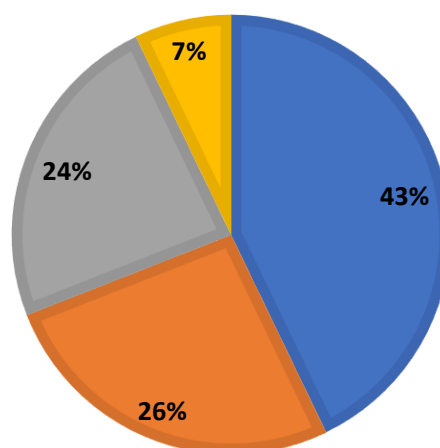
■1名講師講演 ■2~3名講師講演
■シンポジウム ■グループワーク
■その他 ■無回答



結果：2~3名講師（44%）が最も多く、
1名講師（21%）
シンポジウム（17%）
n=48

4 WEBセミナーについて

■WEB良かった5 ■4
■3 ■2
■対面式がよい1



結果：評価5 WEBが良かった（43%）
評価4（26%）
n=42

1－③一番印象に残った内容についてご記入ください。

- ・STによる実演
- ・コロナ禍のなかで、家族との情報共有がいかに重要か改めて感じる事ができた。
- ・CMから求めるリハビリの情報が、どのようなものが欲しいか知ることができた。
- ・STの臨床の関わりについて
- ・各専門職のコロナ禍の現状で考えていることが分かりよかった。
- ・複数の職種・職場の立ち位置や役割を知れたこと
- ・コロナの影響で連携がとりにくかったり、廃用症候群になっていることを聞いて少しでもそのようなことがないように取り組んでいく必要があると考えさせられた。
- ・専門職の最新の知見が聴講できてよかった。
- ・職種によって抱えている課題が違う。
- ・各専門職のコロナ禍における取組や工夫2
- ・言語聴覚士の話が良かった。入院中のリハビリ提供の制限や家族の心理 3
- ・リハビリの継続は必要だが、コロナ禍で制限され、家族のサポートも困難である現状。情報共有ルールが課題
- ・廃用症候群予防運動や病院での感染時における連絡などでの工夫
- ・コロナ禍における患者の状態
- ・PTの活動が分かり参考になった。2
- ・コロナの影響により面会できなかった家族が、入院前後の患者の状態変化に戸惑い在宅復帰後の対応の準備が整っていない。こまめな情報共有の必要性を改めて感じた。2
- ・コロナ禍でさまざまな取り組みをされている状況を知ることができた。ルールブックの活用に活かせる必要性を感じた。2
- ・事例でわかりやすかった。参考になるハンドブックの動画の紹介もあり活用しやすいと思った。
- ・理学療法ハンドブック、コロナに負けるなBTV、バランス保持 7
- ・新型コロナウイルス感染症対策の影響で、各専門職が従来通り介入することは難しい場合があり、新たなリハビリの形や多職種の介入、連携のあり方を構築していく必要がある。2
- ・各種連携について悩み対策は考えられているが、まだ確立されていないこと。
- ・コロナ禍は、医療と介護の日常もおびやかしている。
- ・在宅と医療だけでなく院内での対応が大変なことを改めて知った。新しいRHや多職種連携が必要。

3-②希望のテーマについて

- ・連携実演の手法共有
- ・症例を挙げ、臨床で使える失語・嚥下の訓練方法・対応方法。
- ・コロナ以外のテーマでもよい。基礎知識・評価方法など
- ・同職種でも違う分野で働いていると知らない事が多くコロナ禍で情報共有が難しい。
分野の違う多職種からの意見を聞きたい。
- ・歯科衛生士の介護保険分野での活動・訪問時の指導について
- ・Zoomの活用法
- ・症例検討など多職種とのディスカッション
- ・ルールブック、MCSの現状と課題
- ・神経難病の在宅生活
- ・困難事例で多職種が連携し、解決に至った事例の紹介
- ・今回のテーマをさらに展開し、情報共有ができた事例
- ・退院時のADL低下時の医療と介護の連携
- ・医療と介護の連携、コメディカルが抱える課題についてディスカッション
- ・高齢者に接する上で注意すべきこと、専門職との連携の取り方
- ・薬剤師の在宅支援について
- ・訪問歯科や薬剤師との連携
- ・コロナ禍における専門職の新しい取り組みの実例
- ・コロナありきの支援などの進め方
- ・医療から介護へ連携した内容が生活期にどのように活用されているのか「医療から介護連携のその後・・・」

5. ご意見・感想

- ・コロナ禍で、自分の職種に対して求められていること、しなくてはいけないことを再確認できた。
- ・時間を7:30にすると、参加しやすい方も出てくるかもしれません。
- ・聞き取りやすく、わかりやすいように講師の方が配慮しているのが分かった。4
- ・事例があったほうが分かりやすかった。パワーポイントでもよい 2
- ・司会者も頑張っているのが伝わってきた。
- ・自宅でゆっくり聞けて良かった。3
- ・コロナ禍ではよかった。終息して対面式で参加したい。
- ・症例の具体的連携方法について聞けると実践しやすいと感じた。2
- ・症例の個別的対応などをもう少し深めた内容を聞きたかった。
- ・講演会資料があれば、なおわかりやすかった。2
- ・移動時間を考えなくてよかったので、参加しやすかった。2
- ・対面式と変わらないと感じた。2
- ・WEBでは、直接伝える臨場感に欠けているため、一番伝えたいことは何か感じにくいと思った。
- ・WEBでは、直に質問する時間が、参加が多数の場合無理なのかと感じた。